

平成20年度 第1回都市計画審議会（公共下水道事業評価委員会）会議録

日時 平成20年9月8日(月)14:00～

場所 役場3階第1会議室

出席委員 奥田哲也、村上和子、今村辰義、仙波恵美子、温泉敏一

欠席委員 松藤良則

出席事務局 建設水道課 北向課長、松本技術審査担当課長、
上下水道班 水島主幹、安川主査、中島主査、岡主任

《会長挨拶》

昨年12月の審議会において、私が会長となりました。不慣れですがよろしくご協力ください。

前回の会議で提起のありました上富良野町公共下水道事業の再評価について、ご審議賜りたいと存じます。

《協議事項》

【事務局】始めに、この委員会の位置付けですが、町都市計画審議会条例第2条4号に「その他町長が都市計画上必要と認める事項に関すること。」第4条第2項に「審議会に専門の事項を調査させるため必要があるときは、専門委員若干名を置くことができる。」とありことから上富良野町公共下水道事業再評価監視委員会設置要綱を決定し、審議会委員がそのまま専門委員となり再評価監視委員を兼ねることと致しました。

【委員長】これより、上富良野町公共下水道事業再評価監視委員会を開催いたします。慣例により私が議長を務めさせていただくことにご異議ございませんか。

〔異議なし〕

それでは、レジメに従い議事を進行いたします。まず、担当委員について、公益代表委員・受益者代表委員・学識経験者委員を決定したいと思います。担当委員について事務局より説明があります。

【事務局】「行政機関が行う政策の評価に関する法律（平成13年法律第86号）」に基づき、町が進めている公共下水道事業の再評価について審議して頂きたいと思います。先に6名を公益代表委員・受益者代表委員・学識経験者委員に振り分けて頂きたいと存じます。

〔各委員協議し決定する。〕

【委員長】公益代表委員は村上和子氏、今村辰義氏、受益者代表委員は奥田哲也氏、仙波美恵子氏、学識経験者委員は松藤良則氏、温泉敏一氏とします。次に事務局から公共下水道事業の再評価（案）について説明させます。

【事務局】公共下水道事業の再評価（案）により順をおって説明します。

〔再評価の目的、下水道事業概要、評価の方法について、配布資料を基に説明〕

今後の事業として、終末処理場は、平成3年、平成7年、平成13年設置の3基で稼動していますが、耐用年数経過と共に機械類の劣化が著しく、修理をしつつ稼動していますが古い部品の供給が滞る状況にあります。このため、町では改築更新事業を計画しており、財源として補助金を予定しており、そのためにもこの評価は必要となります。

〔資料により全体計画及び残事業の内容を説明。〕

評価の方法のうち、費用効果分析の手法は「現在価値比較法」により、費用及び便益の算定期間は公共下水道事業開始(昭和57年)～全体計画完了(平成32年)した後の50年後とし平成82年までとしています。費用効果分析の結果は、事業全体での実事業費(費用)は約99億円ですが基準による積算上は197億9千万円、便益は280億3百万円で費用便益比1.415となり、残事業では30億5千5百万円の費用に対し、便益38億9千4百万円で効果としては費用便益比1.275でいずれも1.0を上回り妥当になっています。従いまして、対応方針(案)としては「本事業を継続する。」としています。

【委員長】再評価結果及び対応方針(案)についての質疑を行います。

【村上委員】全体計画事業費は99億円とのことであるが費用効果分析値(現在価値)としてはどのようなようになるのか。

【事務局】現在の全体計画は平成32年度完了予定としていますので配布資料の費用便益比累計表の整備完了年欄－費用計欄の140億4千9百万円が現在価値化となります。平成20年度現在の80億に対しては評価年欄－費用計欄104億3千2百万円という結果になっています。

【今村委員】公共下水道の受益区域に変遷はあるが、計画区域外の人からの不満はないのか。住民感情はいかがか。また、下水道に接続していないのは、どのような人か。

【事務局】町では、公共下水道全体計画区域外には平成15年から合併処理浄化槽の設置を推進しており、補助金交付要綱に基づき補助しています。

全体計画区域内の未普及区域については、現状において全戸で合併浄化槽処理が行われています。また、アンケートにより意向調査を実施していますが、現在のところ、現計画に対する要望や苦情は聞いておりません。接続が遅れている方は、高齢者のみの世帯あるいは古いアパートなどが多く、改修費用や今後の転出などを考え躊躇していると思われる。

〔現状の受益区域について、当初計画からの変遷経過を説明。〕

【村上委員】近年の普及率・水洗化率はどのような状況か。

【事務局】普及率は平成17年度に污水管整備を休止しているため、H17以降は伸びておりません。水洗化率は平成18年度83.6%、平成19年度84.

2%で微増となっています。なお、伸びている要因は既存家屋の立替が主ですが、家族構成の変更や高齢化に伴う屋内改造なども増えてきています。

【村上委員】 合併処理浄化槽の設置や処理費用も含んでいるのか。主婦の立場から考えるとすると、評価することで料金に影響はないか。

【事務局】 下水道事業計画区域外の合併処理浄化の設置や処理費用は含んでおりません。評価の費用算定は、全国一律の基準で算定しており、この評価の費用効果分析では、収入（経営）等下水道料金が数値として直接関係する部分はありません。

【今村委員】 この（案）によると、費用対効果において1.0以上なので、上手に企画運営されていると考えてよいか。

【事務局】 そのとおりです。

【建設水道課長】 現在、国・道を始め町においても、政策評価により重点的に投資を図るという方針でありますので、この評価結果による対応方針に同意をいただければ補助事業として支援を受け、残事業を進めていけるようになりますのでよろしくお願い申し上げます

【委員長】 議論も尽きたようですので、このへんで取りまとめてよろしいか。

この再評価結果（案）にある「本事業の有効性、必要性は事業着手時から変化しておらず、また、事業の実施も計画的、段階的に進めており、今後も事業を推進していく必要があるため、上富良野町公共下水道事業を継続する。」という対応方針及び決定理由を認めることでよろしいか。

【委員全員】 この上富良野町公共下水道事業再評価（案）を認めます。

【委員長】 それでは、本委員会は、町の評価結果に同意する答申を提出することに致します。これで本日の委員会を終了いたします。長時間に渡りみなさまご苦勞様でした。